

## 2025-2026 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 10月

作成者：伊藤桜羽

作成日：2025年11月7日

秋も深まり、キャンパスの木々が鮮やかに色づく季節となりました。アメリカに留学してから約3か月が経ち、ようやくこちらでの生活にも慣れてきました。このような貴重な機会を与えてくださった方々に、改めて心より感謝申し上げます。

### 【学習面】

#### ・中間試験

10月にはこちらで初めてとなる中間試験がありました。どの講義においても事前に十分な復習を行い、落ち着いて試験に臨むことができました。出題内容には、授業中に教授が雑談の中で触れた内容や、授業内のディスカッションで扱ったテーマなども含まれており、日頃から授業を丁寧に聞き取り理解する姿勢の重要性を改めて実感しました。特に印象的であったのは、リスニングおよび記述式の問題です。リスニングでは、音声を聞き取りながら要点を整理し、その内容を自分の言葉でSummaryとしてまとめるという形式の問題がありました。単に聞こえた言葉を写すのではなく、話の流れや意図を理解してまとめる力が求められ、とても良い学習体験となりました。また、グラフや表をもとに、そこから読み取れる情報を箇条書きで順に説明する問題もあり、英語で論理的に分析・表現する力が問われました。これらの試験を通して、単なる知識の暗記にとどまらず、「理解した内容を自らの言葉で正確に説明する力」が重視されていることを強く実感しました。今後も、日常的に授業内容を振り返り、より深い理解を積み重ねていきたいと考えています。

#### ・Genki Kids

「Genki Kids」プロジェクトの実践授業が開始されました。これはフィンドレー市内の子どもたち（今回は8~12歳が参加）に日本語および日本文化を紹介することを目的とした教育活動です。私はその中で「数字とカウント、誕生日」の単元を担当しました。福井出身の私はイントネーションに方言が出やすいため、子どもたちに正しい日本語を教えられるよう意識して標準語で話すよう努めました。授業ではローマ字表記を活用したのですが、「9=kyu（キュ）」「10=ju（ジュ）」「5=go（ゴー）」などを正確なローマ字読みではなく、英単語で使用される際の発音で行っている子が多くいたため、その発音の違いを説明し、繰り返し正しい発音を指導することに力を入れました。特に“roku(6)”の“r”的発音や“hyaku(100)”の“ヒャ”的音は子どもたちにとって新鮮だったようで、楽しそうに繰り返して練習している様子が印象的でした。

さらに、毎回のレッスンでは「きらきら星」を日本語で歌う練習も取り入れています。子どもたちは言葉の吸収が早く、短期間で正確な発音を身に付けており、その成長の速さに驚

かされています。最終回の授業では「ファミリーナイト」で保護者の前でこれまでの練習の成果を披露することになっています。そのため、授業ではより完成度を高められるよう、学習支援に積極的に取り組んでいます。

また、私がペアを組んで担当している児童は8歳の女の子で、明るく好奇心旺盛な性格です。授業の合間に、互いの国の文化や日常生活について話し合うことも多く、言語教育を通して相互理解が深まっていると感じます。この活動を通じて、言葉を教える難しさとともに、異文化を共有し合う楽しさを実感しています。



#### ・Choir Concert

Choir(合唱)の授業で初めてコンサートに参加しました。今回は、“Feel the Spritz”という教材に掲載されているスピリチュアルやゴスペルの楽曲を中心に練習し、発表しました。具体的には、以下の楽曲を合唱しました。

“Joshua Fit the Battle of Jericho”、“Steal Away”、“Got a Robe”、“Sometimes I Feel Like a Motherless Child”、“Ev’ry Time I Feel the Spirit”、“Deep River”、“When the Saints Go Marching In”

これらの楽曲は独特なリズムとハーモニーを特徴としており、音の重なりを揃えることに苦労しましたが、全員の声が美しく調和した瞬間には深い感動を覚えました。

また、他にも韓国語の“Mon-nee-Joh (Evocation)”、ラテン語の“Beati Quórum Víá”、スペイン語を含む“Chili Con Carne”など、複数の言語による作品にも取り組みました。中でも印象に残ったのは、韓国語の“Mon-nee-Joh”です。この楽曲は、失われた愛しい人への思いを静かに、かつ美しく表現した合唱曲で、“Mon-nee-Joh”という言葉には「あなた(愛しい人)よ」と呼びかけるような切なさが込められています。穏やかなバラード調でありながら、和音の重なりが非常に繊細で、各パートのハーモニーが響き合った瞬間がとても心地よく、音楽の持つ力を強く感じました。

来年2月末にはヨーロッパツアーへの参加が予定されており、今後はさらに新しい楽曲が追加される予定です。すべて暗譜する必要があるため、外国語の歌詞を覚えつつ正確な音程を維持することは容易ではありませんが、今回のコンサートを通して、改めて「合唱という芸術が持つ人の心を動かす力」を実感しました。今後も引き続き練習に励み、より良い演奏を目指して努力を重ねていきたいと思います。



## 【生活面】

10月は学習面に加えて、現地での文化的・交流的な活動を通じて、アメリカの生活様式や価値観により強く触れる機会の多い1ヶ月でした。授業外での経験が非常に充実しており、アメリカ社会の多様な側面を実際に体験することができました。

### ・ハウスメイト

毎週火曜日の夜にはハウスメイト全員でアメリカの人気テレビショーである“Dancing Stars”を鑑賞しています。この番組は、著名人とプロのダンサーがペアを組み、毎週異なるテーマに沿ったダンスパフォーマンスを披露し、審査員や視聴者の投票によって順位が決まるという内容です。私たちは午後8時から約2時間にわたって番組を見ながら、パフォーマンスや衣装、審査員のコメントなどについて英語で意見を交わしています。この習慣は単なる娯楽ではなく、自然な英語表現を学ぶ貴重な機会となっています。特に、ハウスメイトとの会話を通して、文化的な感覚の違いやユーモアの表現を理解することができ、英語のリスニング力やスピーキング力の向上にもつながっていると感じています。毎週スマホのメッセージ機能を使って投票を行うのですが、私は一度、表現力に一目惚れしたダンサーの方に投票をしました。ハウスメイト各々に推しがおり、みんな必死にスマホで推しの名前を連打し、投票に少しでも貢献しよう頑張っている姿が可愛らしいです。毎回とても和やかな雰囲気で有意義な時間を楽しんでいます。



#### ・ハロウィン期間の街

また、10月といえばハロウィンの季節です。街中はオレンジや黒の装飾で彩られ、地域全体がこの行事を楽しむ雰囲気に包まれていました。フィンドレー大学はイメージカラーがオレンジなので年中オレンジで溢れていますが、ハロウィンの時期は普段より一層オレンジが強調されていました。私はハウスメイトと一緒に Pumpkin Carving を行い、ジャック・オー・ランタン作りを体験しました。かぼちゃの中身をくり抜いて顔の形をデザインする作業は予想以上に体力を奪われる上に難しかったのです。作業後、完成したものを全員で並べてみると、それぞれのジャック・オー・ランタンの表情やデザインが個性的で、想像以上に雰囲気があり、とても素敵な光景になりました。また、友人の誘いで Pumpkin Filed にも出かけました。広大な畑に無数のかぼちゃが並び、家族連れや子どもたちが楽しそうに写真を撮ったり、お気に入りのかぼちゃを選び嬉しそうに持ち帰る姿が印象的でした。まさにアメリカの秋を象徴する光景であり、地域社会の温かさを感じるひとときとなりました。地域の住宅街では家全体をハロウィン仕様に装飾した「ハロウィンハウス」も多く見られ、住民の創意工夫の豊かさに感心しました。日本ではあまり街の光景からハロウィンを感じることがないので、こうした地域ぐるみの取り組みから、アメリカにおけるハロウィンの文化的な重要性を肌で感じることができました。



### ・ハロウィンハウス

ハロウィン当日、大学の敷地内に住む老夫婦の方々にお家に招待していただき、「ハロウインハウス」を訪問させていただきました。実際に伺ってみると、その装飾の完成度と世界観の作り込みに大変驚かされました。家の外観からすでに雰囲気が作り込まれており、玄関までの道には不気味な音楽が流れ、庭には墓石の形をしたオブジェや人骨を模した装飾が並んでいました。まるで映画の世界に迷い込んだかのような錯覚を覚えるほどでした。屋内の装飾も非常に凝っており、天井や壁には蜘蛛の巣を模した布や骸骨の人形が吊るされていました。部屋の照明も薄暗い場所があり、オレンジや紫のライトによって不思議な雰囲気が演出されていました。特に印象的だったのは、いたるところに置かれていた骸骨の人形で、その精巧さや配置の工夫から、老夫婦のこだわりが強く感じられました。

さらに、食事の内容もハロウィンのテーマに沿っており、ユーモアと創造性にあふれています。例えば「ALIEN EGGS（エイリアンの卵）」というお菓子は、カステラのような形をしたもので、「これを食べたらエイリアンになれるかもしれない」というユーモラスな設定が添えられていました。また、「DRIED DEMON EYES（乾燥した悪魔の目）」と呼ばれるものは、真っ赤なうえに強烈な辛さだったので、見た目も味も強烈な印象を残しました。さらに「FRIED DRAGON SCALES（揚げたドラゴンの鱗）」というお菓子もあり、これは薄くスライスしたポテトを揚げたもので、香ばしくサクサクした食感が特徴でした。そのほかにも、ピザやおばけの形をしたミニケーキなどが並び、見た目も味も楽しめるメニューばかりでした。

しかし、何よりも驚かされたのは老夫婦自身の仮装でした。旦那さんは全身を真っ赤に塗り、歯のような八重歯をつけた吸血鬼風の衣装を身にまとめており、その完成度の高さは圧巻でした。さらに感心したのは、外見だけでなく、話し方や立ち振る舞いまでも役になりきっていた点です。まるで映画の登場人物のように振る舞い、設定や世界観を崩さない徹底した演出がなされていました。そのため、訪問中は終始飽きることがなく、まるでテーマパークにいるような感覚を味わうことができました。ご夫婦は何か季節のイベントがある度に家をデコレーションされていることで有名なので、まだ11月ですがもう既にクリスマスも楽しみにしています。



### ・観光など

週末には Hocking Hills へ小旅行をしました。Hocking Hills はオハイオ州内でも有名な自然公園で、紅葉が最も美しい時期に訪れる事ができました。澄んだ空気と静かな森の中で滝や岩の造形を眺めながらのハイキングは、心身をリフレッシュさせてくれる時間でした。特に、朝日が差し込む渓谷の風景は息をのむほど美しく、自然の雄大さを改めて実感しました。日本の秋とは異なる、アメリカならではのスケールの大きさを感じました。他にも、Columbus,Cincinnati,Dublin,Bluffton,Perrysburg などを訪れましたが、どの場所もまだ十分に周りきれていないので、Thanksgiving などの休暇を活用して、さらに多くの地域を訪れ、現地の文化や人々の暮らしに触れてみたいと考えています。



このように、10月は授業内外問わず、さまざまな活動を通して、アメリカの文化や地域社会、人々の価値観に深く触れることができた月でした。日常の中で積極的に交流の機会を持つことが、語学力の向上だけでなく、異文化理解の促進にもつながることを強く実感しています。今後もこの経験を大切にしながら、アメリカでの生活を通して多様な価値観を学び、自分自身の視野をより一層広げていきたいと思います。

本報告書についてご質問、お問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

itos1@findlay.edu